



トライ・デンティング・イット ハンドブック

トライデント・プラウシェアズ公開手引き書

第3版 2001年

(日本語訳第1版 2004年11月)

**Trident Ploughshares
Tri-Denting It Handbook**

An Open Guide to Trident Ploughshares

**3 rd Edition, January 2001
1st edition of the Japanese translation. November 2004**

トライ・デンティング・イット ハンドブック

トライデント・プラウシェアズ公開手引き書

第3版 2001年1月

目次

| | |
|--|---|
| はじめに | 1 |
| 1章 トライデント・プラウシェアズの概要 | 3 |
| 1.1 活動の目的 | |
| 1.2 トライデント核ミサイル廃絶運動の正当な理由 | 1.6 現在までの歴史的背景とプラウシェアズ運動の哲学 |
| 1.3 トライデント・プラウシェアズの全体的概要 | 1.7 現在に至るまでの核兵器反対運動の概略と年代記 |
| 1.4 活動予定 | 参考文献と謝辞 |
| 1.5 なぜ今、非暴力直接行動、この活動なのか？ | |
| | |
| 2章 トライデント・プラウシェアズの組織概要 | 17 |
| 2.1 概要 | 2.6.1 非暴力と安全に関するワークショップ |
| 2.1.1 コア・グループ | 2.6.2 グループのプロセス |
| 2.1.2 キャンプでの協力 | 2.6.3 合意による意思決定 |
| 2.2 銀行口座 | 2.6.4 小規模グループのためのツール |
| 2.3 非暴力と安全のためのガイドライン | 2.6.5 アフィニティ・グループのアウトライン・プログラム |
| 2.4 共同責任 | 2.6.6 アフィニティ・グループのコミットメント |
| 2.5 プラウシェアズ活動家／誓約者 | 参考文献と謝辞 |
| 2.6 アフィニティ・グループ | |
| | |
| 3章 国家との対話 | 33 |
| 3.1 対話は何故必要か | 3.4 「これがお役に立つといいのですが」 |
| 3.2 政府ならびに軍部との対話の概要 | 参考文献と付記 |
| 3.3 警察との対話 | |
| | |
| 4章 これまでの活動 | 61 |
| 参考文献と謝辞 | |
| | |
| 5章 トライデント潜水艦非武器化の実際 | 85 |
| 5.1 トライデント潜水艦、ファスレーン、クールポート についての背景説明 | 5.3.1 AWE オルダーマストンと AWE バーグフィールド ドって何？ |
| 5.2 トライデント潜水艦を安全に非武器化する方法 | 5.3.2 それは何処にあるのか？ |
| 5.2.1 一般的注意事項 | 5.3.3 行動するにあたって |
| 5.2.2 非武器化へのアイデア | 5.4 その他のトライデント関連サイト |
| 5.3 オルダーマストンとバーグフィールドについての背 景説明 | 参考文献と謝辞 |

6章 核兵器の現状 105

- 6.1 世界の核保有国
- 6.2 核兵器一覧
- 6.3 英国の核兵器
- 6.4 英国の核防衛政策
- 6.5 戦争時における英国トライデントの使用
- 6.6 核兵器が与える影響
- 6.7 英国トライデントの犯罪性
- 6.8 平和、戦争、人道法に関する多文化的、宗教的背景
参考文献と謝辞

7章 法的説明および法廷と刑務所のための手引き 141

- 7.1 前書き
- 7.2 逮捕とそれに伴う手続き
- 7.2.1 スコットランドでの逮捕とそれに伴う手続き
- 7.2.2 イングランドとウェールズでの逮捕とそれに伴う
手続き
- 7.2.3 スコットランドでくたされる可能性のある罪状
- 7.2.4 イングランドとウェールズでくたされる可能性の
ある罪状
- 7.2.5 結果—最終的に起こりうる種々の問題
- 7.2.6 英国人以外のプラウシェアズ活動家に対する注意
事項
- 7.3 スコットランド及びイングランドの法制度と裁判手
続き
- 7.3.1 スコットランドの裁判所
- 7.3.2 イングランドの裁判所
- 7.4 トライデント・プラウシェアズ活動家に対する法廷
手続き
- 7.5 弁論の概要
- 7.6 国際法を採用したトライデント・プラウシェアズ裁
判
- 7.7 あなたに与えられた選択肢
- 7.7.1 裁判で
- 7.7.2 罰金と禁固刑
- 7.7.3 執行吏との付き合い方
- 7.7.4 裁判所の住所リスト
- 7.8 刑務所に関する説明とそこでの対処の仕方
- 7.8.1 準備
- 7.8.2 役に立つ刑務所の住所リスト
- 7.8.3 刑務所生活についての考察
- 7.9 法律用語集
参考文献と謝辞

8章 トライデント・プラウシェアズとマスコミ報道 175

- 8.1 メディアにおける論争
- 8.2 メディア対策
- 参考文献と謝辞

9章 ガイドラインおよび必要書類 185

- 9.1 核の犯罪を阻止するための誓約書
- 9.2 非暴力と安全のための誓約書
- 9.3 非暴力と安全に関するワークショップ申込書
- 9.4 トライデント・プラウシェアズを支持する請願署名
(個人用)
- 9.5 同上. 支持の請願署名 (グループ用)
- 9.6 同上. 支持の請願署名 (議員用)
- 9.7 同上. 支持の請願署名 (著名人用)
- 9.8 同上. 支持の請願署名 (大学教員用)
- 9.9 同上. 支持の請願署名 (宗教指導者用)
- 9.10 トライデント・プラウシェアズに参加しませんか

10章 関連リストと関連情報 201

- 10.1 トライデント関連住所
- 10.2 関連情報
- 10.2.1 数字と図表による検証
- 10.2.2 政治家に送るサンプル・レター
- 10.2.3 核の事故
参考文献と謝辞

はじめに

本書はトライデント・プラウシェアズに参加を希望する全ての人のために書かれたハンドブックである。参加を希望する人が、この運動が自分の希望に添ったものかどうか判断できるよう、トライデント・プラウシェアズの組織や基本原則などについて詳しく述べられている。また活動家として署名する書類や、私たちの活動の法的根拠となる基本的な内容も含まれている。

私たちは意欲的に参加してくれる多くの献身的な人々を必要としており、このハンドブックがそのために役立つことを願っている。本書は項目別に書かれており、各項目は使い易さを考え、色別になっている。読者はハンドブック全部に目を通すべきであるが、その際には非常に重要な部分と予備知識や参考文献としての部分があるということに留意していただきたい。たとえば、2章の2.3に書かれている「非暴力と安全のためのガイドライン」は非常に重要で必ず理解しておかなくてはならないが、6章の6.2の「核兵器一覧」はそれほど熟読する必要はないかもしれない。ハンドブックにない情報が必要な場合はコアグループに連絡していただきたい。

ハンドブックで最も重要な書類はおそらく「核の犯罪を阻止するための誓約書」であろう。これはトライデント・プラウシェアズの活動家全員が署名する書類である。これらの誓約書は新しいメンバーが加入すると一定の間隔を置いて英国首相に送られる。誓約書は9章の9.1に載っている。これはまた皆さんの意図や動機を法廷で証明する際にも役立つものである。

ハンドブック第3版の内容に関しては、各項目の最後に記されている多くの人々の意見を参考にした上で、創立メンバーから成るコア・グループ(2章2.1.1参照)が最終的に承認したものである。

ハンドブック初版と第2版は、各項目の最後に参考文献として掲載されていた全てのテキストからアンジー・ゼルター(Angie Zelter)がコピーしたり、

借用して編集したものである。今回の版は、他のトライデント・プラウシェアズの活動家達を書いた数ヶ所の新しい部分を加え、アンジー自身が改訂したものである。新しい部分は著者が表示されている。表示されていない部分はアンジーが全責任を負っている。イラスト、写真、漫画などは共同謀議の容疑を避けるためにアーティストの許可を得ずに複製されたものである。私たちは、アーティスト達が寛大であることを願っている。特に、表紙のイラストはエミリー・ジョンズ(Emily Johns)の作品から「流用」した。著者や使用された参考文献は各項の末部に記載されており、さらに詳しく調べたい人のために資料も紹介されている。多くの友人や協力者が校正、編集し、さまざまな方面で協力してくれた。それらの人々全てに感謝する。デザイン、デスクトップ・パブリッシング、編集、印刷面で尽力してくれたジョー・ボタン(Joe Button)とレイチェル・ボイド(Rachel Boyd)には特に感謝する。

ハンドブックの内容については、アンジーが全責任を負っている。彼女は、出来る限り正確であるよう努力したが、誤りをいくつか見落としていることは否定できない。そこでアンジーとコア・グループは前もって謝罪するものである。他にも誤りを見つけた場合には、これから先の出版で訂正することができるよう、知らせていただきたい。また私たちは、改善や追加についての助言も期待している。

参考文献の多くはコモンウィール・コレクション(Commonweal Collection)より借りることが出来る。また、フレンズ・ブック・センター(The Friends Book Centre)かハウスマン・ブックショップ(Housmans Bookshop)で購入もできる。トライデント・プラウシェアズは多くの参考文献のコピーを所有しており、それらは photocopy することができる。世界法廷プロジェクト(World Court Project)は、ICJ(国際司法裁判所)に関するどんな書類の要請にも対応可能である。アドレスは10章の10.1に掲載されている。参考文献のいくつかは、私たちのホームページ<http://www.gn.apc.org/tp2000>で見ることが

出来る。またハンドブック全ページは、ホームページからダウンロード可能である。

以下は、ハンドブックの簡単な概要である。

- 1章は、50年におよぶ平和運動とトライデント・プラウシェアズの関わりを簡単に説明している。
- 2章は、トライデント・プラウシェアズの仕組みや財政管理、基本原則やアフィニティ・グループにおけるお互いの役割や支援の方法について書かれている。
- 3章は、トライデント・プラウシェアズによる政府との交渉や対話の状況についての情報を提供している。4章は、現在に至るまでの歴史と2000年9月までの核廃絶運動の概要について書かれている。
- 5章は、トライデント・システムを非武器化する方法についてのアイデアと、トライデント潜水艦、ファスレーン、クールポート、オルダーマストン、バーグフィールドの地図と資料、背景説明を提供している。
- 6章は、核兵器の専門的情報、核兵器の影響とその法的倫理的な位置付けについて書かれている。
- 7章は、活動に関わる人が直面すると考えられる容疑に関するガイドや法廷での弁護の方法、投獄に対するアドバイス、現在の逮捕、罰金、投獄の状況を示している法律セクションである。
- 8章は、現在までに掲載された新聞報道の概要である。
- 9章は、ハンドブックの中で述べられている様々な書類、ちらし、ガイドラインなどである。これらは別紙の形で用意されており、事務局又はコ

ア・グループで入手できるが、この章にあるのを自由にコピーして使うこともできる。

- 10章は、役立つと思われる住所や情報などである。

このハンドブックは単なるガイドにすぎない。誤り、誤訳や脱落部分などがあることは否定できないが、その点をご理解頂きたい。そして、このハンドブックを絶対的なテキストとして使うのではなく補助的なものとして使っていただきたい。皆さんのお役に立つことを心から願っている

